

# 国際協力の現場を語る

JICA(独立行政法人 国際協力機構)は開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持った人達を「JICA海外協力隊」として派遣しています。この人達は海外旅行などでの体験とは違った、海外協力隊ならではの様々な体験をしています。赴任国で体験した、生活、文化、人々との触れ合い、苦労、喜び、伝えたいメッセージなどを熱く語っていただきます。

日時:毎月第3水曜日 15時00分～16時45分  
 会場:JICA横浜(または横浜市消費生活総合センター)、Web会議(Zoom)併用  
 会費:無料(どなたでも自由に参加できます)  
 主催:NPO法人シニアボランティア経験を活かす会  
 後援:JICA横浜

(やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページ、または下記問い合わせ先に確認して下さい。)

問合せ先:横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜3階 国際協力連絡室内  
 シニアボランティア経験を活かす会 水曜日  
 Fax:045-663-3263 担当:井坂敏之(046-887-0286)  
 URL <https://jicasvob.com> E-mail [info@jicasvob.com](mailto:info@jicasvob.com)



赴任国(講演者)	「タイトル」	講演概要
第213回 10月18日 (水) インド・東部 ニューギニア (金井泉寿)	 依然未帰還の英霊の御遺骨	<b>「戦没者遺骨収集活動について」</b> 海外戦没者(沖縄、硫黄島含む)は240万人にのぼります。令和3年度末時点で未収用の御遺骨約112万柱のうち、約30万柱が沈没した艦船の御遺骨で約23万柱が相手国・地域の事情により収容困難な状況にあります。これらを除く59万柱の御遺骨を中心に、海外公文書館からの情報や戦友等からの情報を元に、埋葬場所を推定し、現地調査や遺骨収集を推進しています。東部ニューギニアとインドのインパールにて活動したお話をします。
第214回 11月15日 (水) サウジアラビア (千田 建一)		<b>「サウジアラビアでの勤務と生活」</b> お酒は好きでしょうか? でも、飲み屋はありません! 暑さには強いでしょうか? ほんとに暑いです。49℃ そんな中東の国で3年間勤務しました。あまり観光で訪れる所ではありませんでしたので、実際に見た人は少ないと思います。生活してみると同じアジアの国ということで親日的で、遊牧生活や石油産業まで色々な顔を見せてくれます。既に四半世紀前のこととなりましたが、当時を思い出しながら、本当のサウジアラビアの姿を見てみたいと思います。
第215回 12月20日 (水) フィリピン (市川龍之介)	 開発したアプリを同僚に説明	<b>「IT技術を用いた防災力向上の施策」</b> JICA海外協力隊として派遣されたフィリピンで現地の災害対応力強化のために、地図などの基礎的な空間情報の整備と災害対応用のスマホアプリケーション等の開発をしました。JICAとの契約期間は2018年11月～2020年11月でしたが、新型コロナウイルスの影響で2020年3月末に帰国したため、契約満期まで国内で実施した活動も併せて発表します。
第216回 1月17日 (水) カンボジア (齋尾恭子)	 漁撈の為のメコン川上の仮住まい	<b>「メコンが育むカンボジアの食」</b> カンボジア王立農業大学に2001-2004年JICAから派遣され、教鞭をとりました。帰国後ボランティアでほぼ2年ごとに2005から2016年まで上記大学に赴き、集中講義や研究指導を行いました。その合間にカンボジア教師と共同で、「カンボジアの食生活に関する小調査」と「メコン川沿いの村で魚の発酵食品等の小調査」を実施し、各々論文にまとめました。それらの結果を中心にカンボジアの食文化を紹介します。
第217回 2月21日 (水) エクアドル (鈴木 核)	 アチュアル族の子どもたち	<b>「アチュアル族の叡智に触れる旅」</b> エクアドルの熱帯雨林に暮らすアチュアル族は、お金を用いず自然と共に暮らしてきた先住民で、豊かな文化、智慧を保持しています。そんな人々を訪問し、自然の豊かさ、彼らの文化・考え方に触れることで、地球温暖化や、貧富の差、差別問題など、多くの課題を抱える現代社会に暮らす私たちの生き方の新たな可能性を探求する旅を主催しました。どんな体験をしてきたか、ご報告したいと思います。